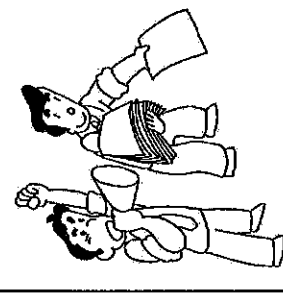
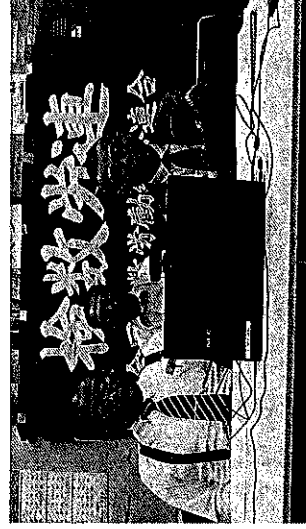


全国 検数労連

〒144-0052 東京都大田区蒲田 5-10-2 日港
福会館 5 階
Tel 03(3733)5621 Fax 03(3733)5622
メール roren@kensu.jp
ホームページ http://www.kensu.jp/
全国 検数労働組合連合
書記局



**23港湾春闘もいよいよ山場を迎えるなか、4月19日に検数労連23春闘
リモート決起集会！全国43回線アクセスのなか、これまでの状況説明と
全体の意思統一をはかる！**



(左から) 瀬戸委員長・山田副委員長・光部書記長

4月12日(水) 18時から
検数労連中央本部で、23春
闘の状況説明と全国の検数
労連組合員の結束と団結を
目的とした『検数労連23春
闘リモート決起集会』を開催
しました。
回集会には全国から41回
線、約120名の組合員が視聴
しました。
集会の冒頭、瀬戸中央執行
委員長から、22春闘では政
府が進める『価格転嫁施策』
による料金還元要請が行わ
れたものの、検数の費上げに
までは及ばなかった経過が
ある。しかし、昨年から続く
物価高騰や人手不足の深刻
化は一企業で乗り越えられ

る範疇を超えている。今春闘
では、『22春闘の潮流は検数
料金収受の追い風になって
いる』との認識のもと、山場
に向けて一致団結するため
に、リモート集会を通じて全
国で働く仲間と呼びかけた
ことの挨拶がされました。
続いて、光部中央書記長か
ら、23春闘における港湾産
別運動の推移として、港湾を
利用するカーサ(自動車・
電機・鉄鋼等々の大手企業)
の労使交渉は満額回答を受
けて妥結している。そのつ
た中で、港湾に深く関係する
邦船社の経営状況は日本郵
船を筆頭に前年比で42%、
商船三井が28%、川崎汽船
が21%の増収となっている。
船社が扱うすべての貨物
は港湾を利用して運ばれて
いるが、その貨物を取り扱う
港湾事業者への下払い料金が
極めて低く推移している
のが実態である。その結果、
港湾労働者の賃金が低いま
ま働きまわっている。人量に
ついては全国的に港湾労働
者が不足している状況に陥
っている。
すべては港湾の労働条件
や環境整備が整っていない
がために他所の産業に人材

4月19日の第8回検数労連23春闘交渉で全日検から有額回答が提示され、両協会の回答が出揃
いました。また、港湾産別春闘の動きでは25日に全国港湾・港運同盟による合同中執、翌26日には
第5回中央港湾団交が開催されるなかで、23港湾春闘は山場を迎えようとしています。そのような
なか、今号では先日開催された検数労連23春闘リモート集会の様子を中心に掲載しました。
検数労連も23春闘の山場に向かって引き続き団結していきましょう。

【検数労連23春闘リモート決起集会】

が流出してしまうというの
が、検数のみならず発生して
いる。
23春闘を今後どのように
進めていくかという点、次回
交渉が26日に開催され、こ
の問、労使の事務折衝が断続
的に行われており、港湾春闘
の山場としては26日の中央
港湾団交あたりになることが
予想される。
組合の最重要課題である
適正料金・下払い料金の収受
については、第3回回交で船
社団体・元請け事業者に対し
て料金を支払うことと支払う
う文書で要請をした。荷主団
体に対しては第4回回交で、
『荷主団体に対しては元請
け事業者に迷惑がかかるの
で文書要請を促す』との回
答がされ、大々的紛糾した。
いずれにせよ、日港協として
船社団体や元請け事業者に
料金支払いの要請文書を出
すという点は過去に事例
がないという部分では一
定の評価はできる。また、
25日には船内・沿岸関
係の回交が行われ、基準内8
000円、基準外年額240
000円の回答が提示され、各
個別交渉に移った。船内・沿
岸関係の費上げ交渉は港湾
の費上げ交渉に大きな影響
があるというから、マスコミ
からは『港湾相場』と言

われている。したがって、今
春闘で提示された船内・沿岸
関係の8000円という額は
は文字通り『港湾相場』と
言える。
今春闘の争点は、22春闘
から継続となっている『費上
げ原資を名目労働環境の整
備のための適正料金や、下払
い料金の適正化を作る』こと
であり料金収受の適正化を
ない限り、個別労使間の交渉
では限界があると言えらる。
この料金収受の適正化のシ
ステムについては、国交省や
経産省が今後の港湾の担
手不足解消に向けた動きと
して政策を発表し、施策を推
進している。
港湾産別としても費金を
含めた労働環境の整備を最
重要課題として動いており、
日港協に要請しても進展が
ない場合は、政治を利用して
行政を動かすことも行いな
がら進めている。
今後は、4月25日に全国
港湾と港運同盟合同の戦術
会議を開催し、個別に行われ
ている春闘交渉の結果や意
見を取りまとめ中央港湾
団交に向けて臨んでいく動
きとなっている。
いままは港湾を利用する
カーサ、船社、元請け船社
から原資を出せ出せと
うが重要となっている。
検数回強会の状況はこれま
での交渉で『アヤナク思惑』
な発言はわりとなっており、
そのようにいふから現行の
回答となっている。

しかし、回強会の状況によ
り我々の生活状況はさらに
厳しい局面を迎えているこ
ろから、回強会には組合員
の生活実態に即した修正回答
を強く求めたい。
【メンバーに参加
しよう】
5月1日は労働者の祭典、
メンバーが全国各地で開催
されます。
今年は新型コロナウイルス
による自粛要請等も解除
されたことから、横浜港や大
阪港でも4年振りに『港湾メ
ンバー』を開催する方向で動
いています。また、4月10日
発行の『検数労連組合機関紙』
では、検数労連各
支部支部・監事監事や検数
連の内部で次のように発言
して、メンバーへの積極的な
参加を呼び掛けている。
『検数労連機関紙の投稿』
『検数労連各支部支部では
新人組合員が初めて参加で
きる組合活動と位置づけ、メ
ンバーへの参加を要請して
います。集まる参加すること
により労働組合を肌で感
じてもらい、労働組合の存在
意識、また結集する上での
重要性を認識すること組
織強化へと繋がっています』
組合員の皆さんもメ
ンバーに参加して労働組合の存
在意識と重要性を再確認し
よう！